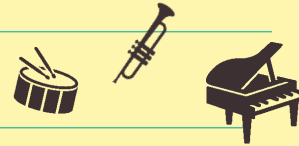


音楽診断

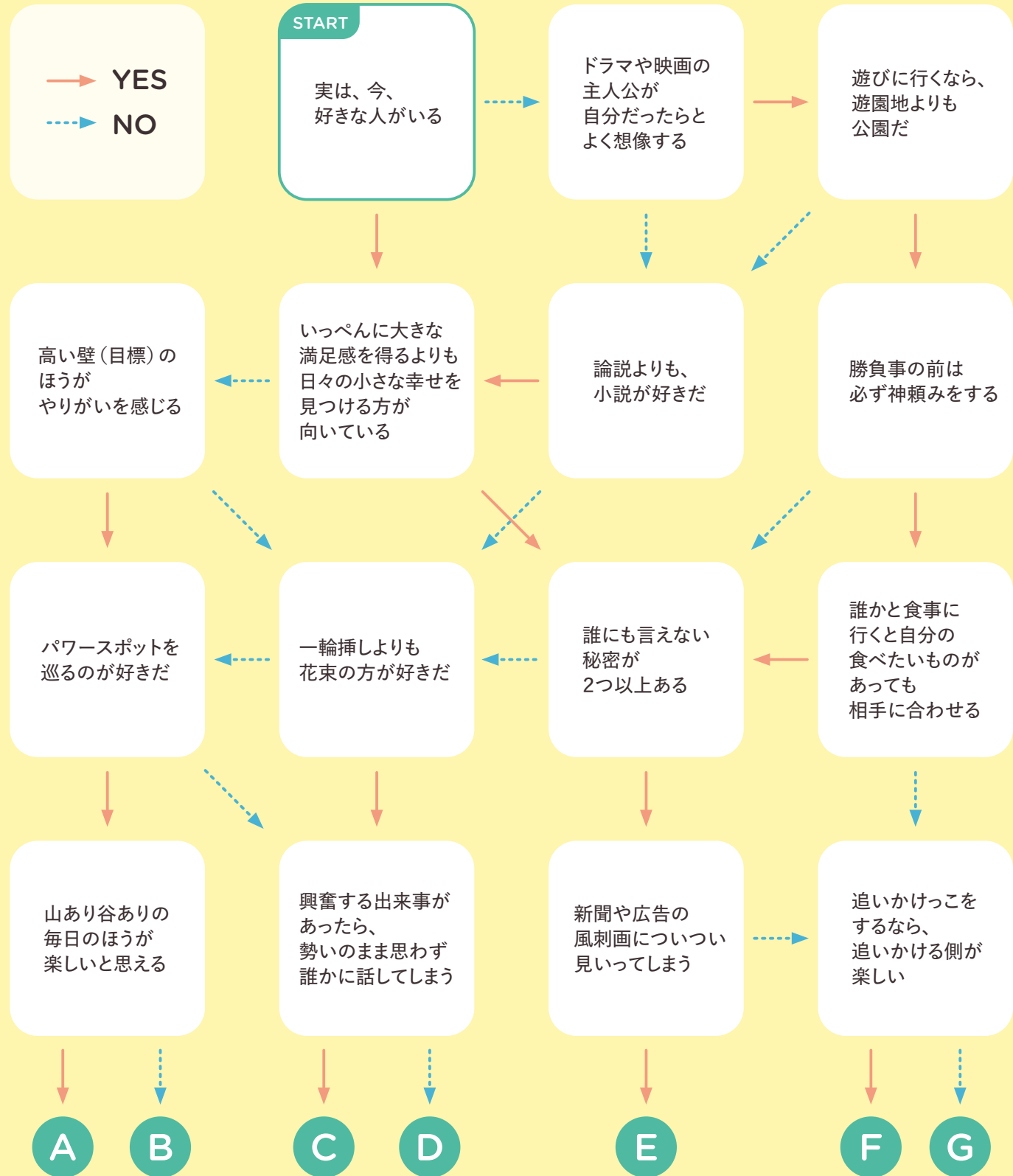
Kyogei Presents

第17回 リート編



『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第17弾のテーマはリート(ドイツ語の芸術的歌曲)です。7曲の中から、あなたにおすすめの作品をご紹介します。

監修・解説 = 山田治生 Text = Haruo Yamada



リート (ドイツ語の芸術的歌曲) について

「リート」とは、ドイツ語で「歌」を意味する。つまり、ドイツ語の歌詞をもった歌曲のこと。元々もっと広い意味をもっていたが、ドイツリートと呼ぶことで、独唱のためのドイツ語歌曲に限定された。ほとんどの場合、ピアノの伴奏が付く。もちろんメロディーだけでも十分に楽しむことができるが、ドイツリートは詩からインスピレーションを受けているものが多く、まず、詩の世界を知ることが鑑賞への近道といえるだろう。

あなたにおすすめの作品

A 寂しくも美しい情景に引き込まれる ブラームス『五月の夜』(作曲:1866年) 作詞:ヘルティ

ブラームスは、オペラを残すことはなかったが、歌曲には名作が多い。『五月の夜』は1868年に出版された「4つの歌」の第2曲にあたる。ヘルティの詩による。月が輝き、ナイチンゲール(夜鳴き鶯)がさえずる5月の夜、離れてしまった愛する人のことを思い、孤独感ばかりが募る。ブラームスらしい暗い情熱を聴くことができる。



B 遠い「君」への思いを色彩豊かに描く リヒャルト・シュトラウス『万霊節』(作曲:1885年) 作詞:ギルム

リヒャルト・シュトラウスは、『英雄の生涯』などの壮麗な交響詩や『ばらの騎士』などのオペラの作曲家として知られているが、美しい歌曲も数多く残している。『万霊節』とは、キリスト教(カトリック)で今は亡き信者の霊をまつる日。亡くなった恋人への呼び掛けが描かれている。愛する人への思いが表れた旋律が感動的である。



C 妻への愛を詰め込み捧げた シューマン『献呈』(作曲:1840年) 作詞:リュッケルト

シューマンの『献呈』は彼の歌曲集「ミルテの花」の第1曲にあたる。1840年、クララと結婚したシューマンは、この歌曲集を彼女に捧げた。文字通り、花嫁に献呈された歌である。君こそわが心、君こそわが世界、といった内容が歌われる。詩はリュッケルトによる。リストによるピアノ独奏版もあり、それもしばしば演奏されている。



D 優しく清らかな歌詞とメロディーが沁みる ベートーヴェン『君を愛す(優しき愛)』(作曲:1795年) 作詞:ヘロゼー

ベートーヴェンは、さまざまなジャンルの作品を残したが、歌曲はそれほど多くない。ベートーヴェンの関心は、メロディーよりも、主題の展開や構成にあった。『君を愛す』は、彼の初期の作品。生まれ故郷のボンからウィーンに出てきてまもない1795年頃に書かれた。ヘロゼーの詩による。恋人への愛がシンプルに歌い上げられる。



E すみれの切ない恋心を描いた名作 モーツァルト『すみれ』(作曲:1785年) 作詞:ゲーテ

モーツァルトが歌曲にゲーテの詩を使った唯一の作品。ひっそりと咲いているすみれは、あの少女に摘んでもらえたらどんなに幸せだろうと思う。しかし、少女はすみれに気づかず、踏みつけてしまう。それでもすみれは彼女に踏まれて死ぬことに幸せを感じるのであった。短い歌曲だが、愛らしいメロディーに哀愁が含まれ、ドラマがある。



F 歌曲王の初期傑作 シューベルト『野ばら』(作曲:1815年) 作詞:ゲーテ

シューベルトは、天性のメロディー・メイカーであり、31年の短い人生に600曲ほどの歌曲を残して、しばしば「歌曲王」と呼ばれる。『野ばら』のメロディーもどこかで聴いたことがあるはず。ゲーテの詩による。子どもが野に咲くばらを見つけ、子どもがそのばらを折ってしまうが、その色や香りやとげの痛さはずっと子どもの心に残るだろう。



G 作曲家が自身の誕生日に残した名曲 ヴォルフ『祈り』(作曲:1888年) 作詞:メーリケ

ヴォルフは、300曲あまりの歌曲を残し、19世紀末最大のリート作曲家といわれている。彼の作品は、2つのオペラと若干の管弦楽曲、室内楽曲、合唱曲以外は、すべて歌曲である。精神を患い、42歳の若さで亡くなった。『祈り』は「メーリケ詩集」の第28番にあたる。神への祈りと慎ましやかな喜びや悲しみへの思いがゆったりと歌われる。



山田治生(音楽評論家)

1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に『トスカニーニ〜大指揮者の生涯とその時代』、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人 ある日本人指揮者の軌跡』、『いまどきのクラシック音楽の楽しみ方』(以上、アルファベータ)、編著書に『戦後のオペラ』(新国立劇場運営財団情報センター)、訳書に『レナード・バーンスタイン ザ・ラスト・ロング・インタビュー』(アルファベータ)などがある。

